

# 3年 社会科 『安全なくらし 身近にひそむ交通事故』

## 単元のめあて

- 自分たちの地域では、地域の人々や関係諸機関が協力して交通事故の防止に努めていることを理解する。
- 自分たちの地域の人々の活動や設備から、交通事故を防ぐための工夫や努力について考える。
- 学習の問題を追究・解決する活動を通して、自分たちの地域の事故や事件を防ぐ働きについてすすんで調べ、考えている。

## 創造的な資質・能力の素地を育成するための視点

交通事故防止に携わる人々との対話を大切にし、問題の発見・解決に資する情報収集にすすんで関わろうとする態度を養い、自分事と捉えて交通安全について発信することができるようにする。

## 創造的な資質・能力の素地を育成するための手立て

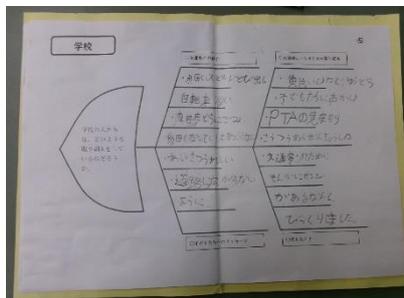
### 授業パートナーとの連携

警察の方に質問する機会を設け、思考ツールを使い学習内容を整理する。  
地域の人々（町会）へのインタビューでは、警察と地域住民との連携について、児童がとらえられるようにする。  
学校の児童誘導員や副校長の話から、これからの自分の行動について考えていく。



### 学習サイクルや振り返りの工夫

学習問題に対して、多面的に見ることができる思考ツール「フィッシュボーン」を活用し、工夫とその要因について整理しながらまとめることができるようにする。思考ツールで得られた情報を整理して書き、考えを共有するための場を設定する。



### ICTの活用

単元の導入でオクリンクプラスを使用し、交通安全クイズを行うことで身近に起こりそうな交通事故についての意識を高め、具体的な学習問題につなげられる。  
ポスター作成にICTを活用することで、考えを言語化し、効果的にデザインする際の一助となるようにする。



## 成果と課題

- 警察署の方々への質問、町会の方々（防犯部長・交通部長）・児童誘導員や副校長の話から、生きた情報が得られ、児童が学習課題を自分事としてとらえることができた。
- 聞きながら記述する経験が少なく、ワークシートの表記やスピードに個人差が見られた。また、思考ツールを見合いながら情報を共有する場面において、児童の主体的活動につなげていくかが課題となった。